

「岩手県新人保健師研修の評価に関する調査」報告書概要

（平成 29 年 3 月発行）

【調査担当者】

岩手県環境保健研究センター 三浦紀恵 海上長子
岩手県保健福祉部健康国保課 佐藤雅子
岩手県立大学看護学部 岩渕光子 田口美喜子 藤村史穂子

【目的】

岩手県が平成 24 年度から開催している「岩手県新人保健師研修」について評価し成果と課題を明らかにすることで、今後、より効果的な研修を開催することを目的に実施しました。

【対象者】

「平成 27 年度岩手県新人保健師研修」受講者等

- ①採用 1 年目の新人保健師 24 名（協力者 18 名）
- ②新人保健師が所属する 15 カ所の現任教育担当保健師（協力者 13 名）

【調査方法】

受講 1 年後における研修内容の定着状況と各職場の人材育成体制についてアンケート及びインタビュー調査を行い、研修評価はカークパトリックの研修効果測定を参考に行いました（調査時期：平成 28 年 8～11 月）。

【調査内容】

- ・新人保健師：研修内容が業務に活かされているのか 1 年後の変化について調査
- ・現任教育担当保健師：職場における人材育成体制について調査

【結果】

- ・多くの新人保健師は、研修受講後、業務において成果を実感し、相談者の具体的支援につなげている人もいました。現在実施している研修内容は、おおむね効果があることがうかがわれました。
- ・研修項目の定着度を見ると、受講して短時間で実践に結びつくものと、経験を積むことで実践できるようになるものがあることが確認できました。
- ・研修直後および 1 年後も「ややできていない」という研修項目が 1 項目ありましたので、研修方法を改善する必要があることがわかりました。
- ・現任教育について、一部で目標が明文化されず現任教育計画が作成されない環境で行われている現状が確認されました。
- ・各職場では業務量の多さ、配置の課題などにより現任教育が進まない現状がある中、新人保健師に丁寧に関わり職場全体で育成している状況がうかがわれました。